

身近な話題をお届けします。皆さんからの情報もお待ちしております。

つながるアルバム

ライオンズクラブ 40周年



飯館ライオンズクラブ(菅野敬会長/関根・松塚)が、結成40周年を迎え、記念アクティビティとして、「いいたて村の道の駅までい館」へ、ポール型ソーラー電波時計(写真後方中央)を寄贈。9月30日には、交流センター「ふれ愛館」で、記念式典を行い、「社会奉仕団体として、復興する村で役割を果たしていこう」と節目を心に刻みました。

大 内彩加さんが来庁



村のまでい大使で女優の大内彩加さん(草野)が来庁し、「ミス・アース・ジャパン福島」として活動していることを、菅野村長らに報告しました。この活動は、世界的ミスコンテストの県大会ファイナリスト7人が、福島県の魅力の発信などに取り組んでいるものです。大内さんは「私は浜通りの担当。これからも村と共にやっていきたいです」と抱負を話していました。



き こりのアジサイを剪定

10月15日、そうま広域シルバー人材センター(菅野哲理事長/草野)の村民会員10人が、奉仕作業の一環で、「村民の森あいの沢」で、アジサイの剪定や枝処分を行いました。宿泊体験館きこりでは、入浴や休憩をしてもらい、感謝を伝えたそうです。

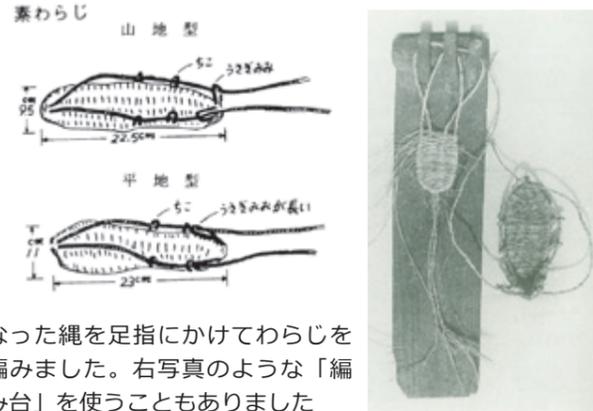
相 農飯館校 笑顔あったか“紅葉祭”

相馬農業高校飯館校の文化祭「紅葉祭」が、福島市にあるサテライト校で開催され、10月20日には一般公開も行われました。接客する生徒は礼儀正しく、文化祭は温かな雰囲気。手作りのカレーを味わっていた来場者は、「知人の娘さんが在籍しています。皆さん頑張っているのを見てきたので、募集停止となったことが嬉しいです」と話していました。



日頃の学習の成果やサテライト校の歩みをまとめたポスター掲示の他、アトラクションも。左の写真はおいしいカレーと豚汁を提供する女子生徒の笑顔

参考/写真転載
飯館村史第3巻「民俗」



なった縄を足指にかけてわらじを編みました。右写真のような「編み台」を使うこともありましたが



その6

わらじのはなし

夏の間は、何も仕付けられない「素わらじ」を履きました。わらじには、左上の図のように、左右2対のチコと、1対のウサギミミがついています。ウサギミミの短いものは、普段の仕事用。長いものは、かかとにフィットするもので長道に適していて、力仕事には向かなかったそうです。

「ジンベわらじ」は、ワラ靴の一種で、台の部分は素わらじと同じつくり。爪掛(つまがけ)つま先の覆い(が)が付いていて、山仕事などに履きました。雪の中の柴まるき(細い枝をまとめる作業)にも履くため、冬には20足や30足もつくって吊るしておきました。新しいものは固くてはきづらかったけれども、雪を踏んで2日も履くと、ふかふかして履きよくなりました。少々の湿気は入ってこなかったそうです。雪が深くなると、すねの方まで編んだ雪靴を履きました。ワラの特性を生かした履物が、日々の暮らしを支えています。現代では、足の健康のためにわらじや草履を履く人があり、布わらじなども人気ですね。

園児募集

平成31年度

その子にしかない
その子の光を見つけ
より輝かせる教育

飯館村立 までのりの里のこども園

☎0244-42-0229

★入園手続き 一次締切 11月22日(木)
詳しくは全戸配布のちらしをご覧ください

ご協力ありがとうございました
西日本豪雨 被災地にエールを



今年6月末から7月にかけて起きたいわゆる西日本豪雨の被災地に義援金を送ろうと、村は役場窓口等に募金箱を設置しました。その結果、多くの皆様の善意をいただき、10月5日、村も加盟する「日本の美しい村」連合を通じて、西日本豪雨の被災地に、18万4,697円をお送りさせていただきました。ご協力をいただいた皆様、ありがとうございました。